

Book List ～沖芸の先生による、今読むべきこの10冊～ Vol.14

わたしたちの暮らしとあかり

光を知る・照明を楽しむきっかけとなる書籍10選

選者：赤塚 美穂子

沖縄県立芸術大学美術工芸学部デザイン工芸学科デザイン専攻講師。
名古屋市生まれ。京都市立芸術大学漆工専攻卒業、同大学大学院デザイン専攻修了。
伊 Politecnico di Milano に交換留学。2006年～2020年までコイズミ照明
株式会社にて照明器具製品のデザイン・企画・開発業務に従事。

県立芸大の
先生が選ぶ
おすすめ本!



J/545/F72/

くらしを変えてきた あかりの大研究 たき火、ろうそくからLEDまで

深光富士男 監修：坪内富士夫 / 藤原工

PHP 研究所 2010年

あかりは人の暮らしにどのように作用してきたのか。光を活用した道具は暮らしのあかりとして光源の移り変わりともに変化してきた。太陽・火・ろうそく・ガス灯・白熱灯・蛍光灯・LEDと変化してきた光源。この光を工夫して道具にすることで暮らしを豊かにしている。灯具からその当時の暮らしが垣間見え、あかりに対する思想までも伝わってくる。江戸時代の籠灯はポータブル式照明器具で懐中電灯のようなもの。蠟燭を光源としつつも多少ふりまわしても消えない優れた構造を持つ。カラクリ灯具の中には油を燃料とする動物を模した遊び心のあるものもある。ろうそくからLEDまで各光源の発光原理も完結に図解された、あかりのプロダクトデザイン図鑑。



/702.53/P15/

ナムジュン・パイク

2020年 笑っているのは誰? + ? = ??

ナムジュン・パイク 編著：ワタリウム美術館

平凡社 2016年

アート作品の中に登場する光。ナムジュン・パイクが物理的なものではなく電子や情報の時代になることを予感し、物質的な画材を使った表現から電子信号を使った作品をつくり始めた時期に、鍵盤を押すと光を放つブリペアド・ピアノ「ピアノ・インテグラル」など音楽と電子信号に関する作品を多く発表している。また「禅・フォー・TV」など電子信号からテレビを使ったアートの可能性を探っていた。こうした流れの中で「キャンドル TV」という電子信号を用いずアナログな光の作品を制作。テレビの電子信号を見ている時とは違う蠟燭の光を眺めることで、無明の闇を照らすという意味や、煩惱の炎から自由になる悟りの意味が込められた作品を紹介している。

陰翳礼讃



谷崎潤一郎
創元社 1939年

日本特有の美意識から光の思想を知ることが出来るあかりの入門書。蓋付漆桶で吸物をいただく度に本書が頭に浮かぶ。戦後は空間全体を明るくすることが豊かだと捉えた時代もあったが、元来の陰影のある空間で五感で味わう時間の豊かさや価値に改めて気付かされる。複数の出版社からも発行される定番の一冊。

/914.6/TA88/

美しい「あかり」を求めて 新・陰翳礼讃

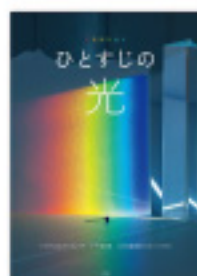


石井幹子
祥電社 2008年

景観照明を中心に手掛ける照明デザイナー石井幹子氏の著書。陰影の美しさに魅了され、光と闇の中間領域にある柔らかなあかりが調和のとれた景観をつくると語っている。海外（フィンランド・ドイツ）の照明設計事務所を経て日本の景観をつくるデザイナーが捉える、現在の日本のあかりの思想。

/545/175/

写真科学絵本 ひとすじの光



ウォルター・ウィック
訳：千葉茂樹 監修：佐藤勝昭
小学館 2019年

光ってなに？という素朴な疑問に身近な光の現象を用いて易しく紐解いてくれる写真科学絵本。私たちが見ている光は、可視光とよばれる電磁波の一部の波長領域。見えても手に触れることができず理解するには実感が得られない。本書は美しい写真と易しい言葉で解説し、光を知るきっかけを与えてくれる。

J/425/W71/

インテリアデザインの半世紀



ISC カレッジオブアーツ校友会
柏木博[ほか]/[著]
六福社 2014年

国内インテリアデザインについてこの半世紀に発展した変遷をデザイナーごとに紹介。コイズミ国際学生照明デザインコンペ審査委員長としてあかり文化の発展に貢献されたGKデザインの栄久庵憲司の言葉の中では、イサム・ノグチの光のデザインについて称賛している。製品から建築・景観まで光のデザインが幅広く含まれる内容。

/529.021/SE69/

照明デザイン究極ガイド 住宅から商空間までこれ1冊でOK！



澤井聖一
エクスナレッジ 2010年

LEDの普及期で従来光源（白熱灯 / 蛍光灯等）がまだまだ活用されている頃の事例であるが、住空間から店舗空間まで施工写真を用いて照明手法を解説している。また、建材に用いられるさまざまなマテリアルと照明との組み合わせによる効果を、LEDと従来光源とを比較し明示している。

/528.43/SH96/

「電子回路」のキホン 基本的な要素の組み合わせでマスターする電子回路



木村誠聡
ソフトバンククリエイティブ 2011年

電子回路は私たちの暮らしを支えており、中でも半導体は今や不可欠な存在となっている。照明では半導体を搭載したLED光源があり、その発光原理や光をコントロールする制御の仕組みを、電子部品キャラクターが控えめに登場しながら紐解いてくれる。オールカラーで複雑そうな内容をわかりやすく図解している。

/549.3/KI39/

失われた夜の歴史



ロジャー・イーカーチ
訳：樋口幸子 / 片柳佐智子 / 三宅真砂子
インターシフト 2015年

もし照明が無かったら私たちの暮らしはどのようなもの？照明が普及していない産業革命以前の夜が暗闇であった時代、西洋社会の真実を歴史学者が紹介。暗闇は社会的安定または混乱をもたらすのか。人工光が及ぼす睡眠への影響や夜ふかしによる倒錯した嗜好など興味深い内容。照明の有り難さを再確認できる一冊。

/230.5/E42/

光の形而上学



山内 志朗 / 編
麗成義塾大学 言語文化研究所 2018年

光とは何かを哲学的視点から迫る。文中に出てくる哲学者の引用論や数式も自身にとっては馴染みが無く難解であるが、日常とは異なる視点から光を捉えた考えに触れることや、知ったつもりになっていることへの根源的な問いかけが、真理を追究しつづけることの面白みと学ぶべき姿勢がある。光の哲学書。

/130.4/Y46/